

平成26年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成27年3月20日

研究・研修課題名	認知症ケア専門士認定資格取得試験
研究・研修組織名（所属）	リハビリテーション部 （所属：リハビリテーション部 総括責任者：馬庭壯吉）
研究・研修責任者名（所属）	伊藤 路子（リハビリテーション部）
共同研究・研修者名（所属）	伊藤 路子（リハビリテーション部）

目的及び方法、成果の内容

①目 的

「認知症ケア専門士」制度とは、認知症ケア学会が実施するものであり、認知症ケアに対する優れた学識と高度の技術、および倫理観を備えた専門技術士を養成し、我が国における認知症ケアの向上ならびに保険・福祉に貢献することを目的とするものである。すべての受験者に対して試験および面接を行い認定するため、認知症ケアに特化した人材の育成に極めて重要な制度といえる。また、認定後も認知症ケア専門士には生涯学習が義務づけられている。当院作業療法士がこの認知症ケア専門士の資格取得することを目的とする。

②方 法

認知症ケア専門士認定試験受験

受験資格

認知症ケアに関する施設・団体期間等において、試験実施年の3月31日より過去10年間に於いて、3年以上の認知症ケアの実務経験を有する者。

・第1次試験（筆記試験）

各分野 50問/4分野合計 200問（マーク式、五者択一）

受験分野

- ①認知症ケアの基礎 ②認知症ケアの実際Ⅰ 総論
③認知症ケアの実際Ⅱ 各論 ④認知症ケアにおける社会資源
各分野の有効期限は5年

4分野すべてにおいて70%以上の正答率

・第2次試験（論述・面接）

論述試験：事例問題に対する論述

面接試験：6人を1グループとした面接（テーマに則した1分間スピーチとディスカッション）

第2次試験合格後、認知症ケア専門士の登録申請し、認知症ケア専門士の資格取得となる。

③成 果

【事前学習について】

認知症ケア学会公式テキストを購入し、事前学習をおこなった。以下にその概略を示す。

- I. 認知症ケアの基礎
 1. 認知症ケアの理念
 2. 認知症の人の現状
 3. 認知症の医学的特徴
 4. 認知症の人の心理的特徴
 5. 認知症の人を取り巻く社会的環境
 6. 認知症ケアの原理・原則
 7. ケアの担い手
 8. 認知症予防
- II. 認知症ケアの実際Ⅰ：総論
 1. 認知症ケアの視点と目標
 2. ケアの実践的プロセス
 3. コミュニケーションスキル
 4. 認知症ケアのアセスメント方法
 5. 家族への支援
 6. 認知症の人のチームアプローチ
 7. 認知症の人と身体拘束・虐待
 8. 認知症ケアにおける倫理
 9. 事例報告のまとめ方
- III. 認知症ケアの実際Ⅱ：各論
 1. 身体的兆候の理解と対応
 2. 行動・心理症状とその対応
 3. 薬物療法の知識
 4. リハビリテーション
 5. 非薬物療法
 6. 施設・在宅における環境支援
 7. ターミナルケアのプロセスと対応
- IV. 認知症ケアにおける社会資源
 1. 認知症の人にとっての社会資源
 2. 認知症の人に対するフォーマルケア
 3. 認知症の人に対するインフォーマルケア
 4. 認知症の相談窓口
 5. 地域での認知症の人の支援

【試験について】

第1次試験は2014年7月6日に京都、都メッセにて開催された。

認知症ケアの基礎、認知症ケアの実際Ⅰ（総論）、認知症ケアの実際Ⅱ（各論）、認知症ケアにおける社会資源の4分野の筆記試験ともに合格した。

第2次試験は2014年11月30日に神戸、神戸国際会議場にて開催された。

2テーマの論述問題と、6名1グループとした集団面接（当日提示されたテーマに則した、受験者各自の1分間スピーチとディスカッション/約20分）ともに合格した。

認定試験合格率は47.6%であった。

第1次試験、第2次試験ともに合格し、速やかに認知症ケア専門士登録申請済みである。

第10回認知症ケア専門士認定試験合格証を別紙資料として示す。

【今後について】

2015年1月現在島根県内の認知症ケア専門士の人数は、164名であり、全国的にも非常に少ない人数と言える。

今後は、認知症ケア学会に入会し、認知症高齢者のケアに関する研究や、ケア技術の向上のための学習、社会啓発等を通じて、質の高いケアを実現し、認知症高齢者および介護者等の生活の質の向上に努めるための、生涯学習活動（講座での参加、論文投稿等で専門士単位を取得）に参加する。5年以内に認知症ケア学会が定める30単位以上の専門士単位を取得し、専門士資格の更新を行って行くように努める。

*一般社団法人 日本認知症ケア学会

日本認知症ケア学会認知症ケア専門士認定証 受領済 【2015年4月1日】